

第三次川越市観光振興計画（原案）に対する
意見募集の概要と結果

1 意見募集の概要

(1) 募集期間

令和7年11月26日(水)から令和7年12月25日(木)まで

(2) 意見を提出できる方

- ①市内に住所を有する方
- ②市内の事業所等に勤務する方
- ③市内の学校に在学する方
- ④その他この案に関して利害関係を有する方

(3) 閲覧方法

- ①ホームページからの閲覧
- ②紙による閲覧
(設置場所：観光課、市民センター、川越駅西口連絡所)

(4) 提出方法

- ①直接持参
- ②郵送
- ③ファックス
- ④市ホームページからの電子申請

2 意見募集の結果

- (1) 意見提出者数 4名
- (2) 意見数 21件

3 提出された意見及び市の考え方

提出されたご意見とそれに対する本市の考え方については、次のとおりです。

提出された意見及び市の考え方

No.	対象項目	意見原文	意見に対する市の考え方
1	第1章	<p>川越の観光振興計画は、これまでの歩みをふまえて「市民憲章」にある誇りや伝統を守りながら進めることが大切です。観光客をたくさん呼ぶことだけを目標にするのではなく、暮らす人・訪れる人・働く人がみんな心地よく過ごせるように、質を重んじた観光を目指すべきです。</p> <p>日帰り旅行を基本にしつつ、一部の人が宿泊できる環境を整えるのが現実的です。国や県の計画と歩調を合わせることも必要ですが、川越ならではの「文化を尊重する姿勢」を前面に出すことで、この街だから選ばれる特別な観光都市になれると思います。</p>	<p>「暮らす人・訪れる人・働く人がみんな心地よく過ごせるような、質を重んじた観光を目指すこと」につきましては、P35第4章の基本理念に記載のとおり、本計画において、重要な位置付けと捉えております。「市民・観光客・事業者」の3者が一体となり、小江戸川越の魅力を高め、持続可能な観光都市を目指してまいります。</p> <p>また、宿泊観光に関する具体的な取り組みにつきましては、P51施策10において、宿泊者数の増加と消費額の拡大を図ってまいります。いただいたご意見を参考としながら、本計画を推進してまいります。</p>
2	第2章	<p>観光産業の収益力を高めることは大切ですが、その前提として景観や自然、文化の保全を第一に考えるべきです。川越は歴史的な街並みだけでなく、アニメや特撮、ゲームなどの作品にも多く登場し、ファンが訪れる「聖地」としての魅力を持っています。こうした文化資源を活かしたコラボや散策イベントを積極的に展開することで、観光の幅を広げられると思います。(例えば話題のアニメ「ダンダダン」では作者さんも舞台の川越を訪れてSNSで発信され話題に。大人気アニメ「ソードアートオンライン」の主人公は川越に住んでいます。母校の初雁中学校や、近所の小仙波氷川神社など、ファンたちは聖地として中学校や、神社に行きますが、神社の前に看板があり、同じ写真が撮影出来ないなどがあります。アニメのスタッフは川越の街を歩き、毎回取材しているそうです。ファン達は主人公の自宅を探して散歩してくれます(自宅はさすがに架空だと思えますが))</p> <p>また、聖地巡礼を楽しむ人たちのために「聖地マップ」を整備し、学生がボランティアで通訳を行うなど、地域の若い世代が外国語に触れながら郷土愛を育てる仕組みを作ることも有効です。英語力だけでなく、日本文化を誇りをもって説明できる力を育てることが、観光の質を高めることにつながります。</p> <p>さらに、刀剣乱舞などのゲームキャラクターでマンホールデザインを作った自治体もあります。(例えば刀剣乱舞のキャラでいうと川越とゆかりがあるのは御手杵(本丸)と小狐丸(氷川神社)等ですね。)文豪のゆかり、妖怪や昔話など、川越には多彩な物語があります。これらを景観を壊さない形で観光資源として発信し、現在すでに行われている提灯を持って着物で歩くイベントや、甲冑体験ツアー、妖怪(和装コスプレ)パレードなど、地域の文化や日本文化を楽しむ場を広げていくことが望ましいです。モデルを用意してのカメライベント歩きなども効果的です、参加者がSNSやHPに写真を載せてくれます。こいのぼりの色付け、風鈴の絵付け、お囃子体験など参加型のイベントで、施設のホールを使う有効利用などもあります。</p>	<p>本計画では、景観や自然、文化の保全を考えるという視点を取り入れた取組を、P48施策7に盛り込んでおります。</p> <p>アニメや特撮、ゲームなどの文化資源を活かしたコラボや散策イベントの積極的な展開につきましては、P55取組47及び取組48において設定しておりますので、取組を通じて、関係人口やファンコミュニティの拡大を図ってまいります。</p> <p>また、P53施策12に「観光に関する人材の育成」を設定しており、これは観光の質を高めるため、日本文化を誇りをもって説明できる力を育てることに繋がることと認識しております。</p> <p>地域の文化や日本文化を楽しむ場の拡大については、P47施策6において、市民との協働により地域全体での観光振興を図ることを目指しています。このほかいただいたご意見を参考としながら、本計画を推進してまいります。</p>

3	第3章	<p>川越の観光は、小さな店舗が集まる街並みが魅力であり、お土産や食べ歩きの実が大切です。食べ歩きやすさや写真に映える工夫を進めることで、観光客にとって心に残る体験になります。特にカップルで訪れる人が多いことから、縁結びで知られる氷川神社を中心にした「カップル向けコース」を整備すると良いと思います。</p> <p>一方で、観光客の増加に伴うゴミ問題も課題です。景観を損なわない形でゴミ箱を設置し、ゴミ拾いボランティアの活動を広げることで、ポイ捨ての抑止力になります。</p> <p>また、観光客が一番街に集中している現状を踏まえ、喜多院や氷川神社、本丸御殿、川越歴史博物館、市立博物館などへ足を運べるような散策コースを整備することが重要です。歴史と自然を安全に楽しめる環境を整えることで、川越全体の魅力を伝えられます。</p> <p>観光は「質の高いおもてなし」と「質の高い観光客」によって成り立つべきです。安売りをすれば文化財の破壊やマナーの問題につながりかねません。川越は単価の高い日本人観光客の憩いの地として位置づけることが望ましいです。</p> <p>さらに、将来に向けて義務教育の段階から川越の文化に触れ、郷土愛を育てることが必要です。ネットリテラシーや最低限の英語力を学ぶことで、観光客に誇りをもって説明できる市民を育てられます。外国人観光客に無理に寄せる必要はなく、本当に興味を持って訪れる人はマナーも良い傾向があります。免税店を増やす必要もありません。外国人が魅力を感じるのは、子どもが1人でいても安心して暮らせる街並みや、学生が制服で自然に散歩できる環境、それがアニメの世界に入り込んだような感覚になれるそうです。私達には当たり前な街の姿です。</p>	<p>本市においては、令和7年1月に、ごみポイ捨て防止対策を講じるため、市補助金を活用して、川越クリーンアップ委員会及び株式会社まちづくり川越により、市内2か所にスマートごみ箱が設置されました。</p> <p>また、散策コースの整備については、「小江戸川越観光デジタルマップ」や「小江戸川越みどころ90観光コース」などにおいて、一番街周辺以外の観光スポットや様々な散策コースを紹介しています。本計画においては、P50取組33の中で、いただいたご意見を参考としながら、取組を推進してまいります。</p> <p>川越の文化に触れ、郷土愛を育てるため、P46基本方針2「観光を通じたシビックプライドの醸成」の中で、主に取組20や取組26などにおいて、地域の魅力発見の場の提供や地域への愛着と誇りの醸成に繋がる取り組みを推進してまいります。</p>
4	第4章	<p>観光環境を充実させるためには、まず住民との摩擦を避けることが大切です。川越の街が整備され、文化を大事にすることに反対する人はいませんが、景観を壊すような建物や産業、海外資本の宿泊施設や民泊、大規模な外国人向けの集客施設などは、地域の人々に反感を呼ぶ可能性があります。</p> <p>そのため、すでに地域に根付いている企業や農業、工芸、アーティスト、クリエイターと連携し、販売物の開発やマーケティングを進めることが望ましいです。川越らしさを活かした商品や体験を広げることで、市民も観光客も誇りを持てる観光環境になります。</p> <p>さらに、これからの時代にはSNSやWEB動画、AIのリテラシーを学び、IT技術やAI技術を活用できる人材が必要です。自治体にもホワイトハッカーのような専門人材が求められるでしょう。こうした知識や技術を義務教育に取り込み、市民が主体的に観光や地域づくりに関わる力を育てることが大切です。</p>	<p>地域の企業等と連携し、販売物の開発やマーケティングを進めるとともに、川越らしさを活かした商品や体験の拡大につきましては、P52施策11において、地元産品の販売促進を図ることにより、地域経済の活性化を目指します。</p> <p>また、P46基本方針2「観光を通じたシビックプライドの醸成」の施策5～7において、小中学生を含めた市民が主体的に観光や地域づくりに関わるよう、各取組を実施します。</p> <p>いただいたご意見を参考としながら、市民の皆さまに、本市への愛着と誇りを持っていただけるよう、生活の質の確保を図りながら、観光地域として必要な観光環境の整備を推進してまいります。</p>

5	第5章	<p>川越の未来を考えると、教育関係者と連携して小中学生に歴史や文化、伝統を学んでもらうことはとても大切です。郷土への愛着や誇りを育てることで、次世代が「文化や伝統を残すために何が出来るか」を考えられるようになります。さらに、IT技術や研究職など高度な人材にも育っていけるような教育を進めることが望ましいです。</p> <p>観光の面では、ご当地グルメを「取り寄せできるもの」と「現地限定のもの」に分けて整備すると、オーバーツーリズムの抑制にもつながります。現地に来られない人も楽しめる一方で、現地でしか味わえない特別感も守れます。</p> <p>また、宿泊施設や商品開発、企業とのコラボなど、幅広いステークホルダーが情報を共有しながら取り組むことが重要です。観光は市民生活とも密接に関わるため、こうしたパブリックコメントや市民の声がきちんと届く仕組みを整えることが必要です。市民が主体的に参加できる体制があつてこそ、持続可能な観光まちづくりが実現します。</p>	<p>持続可能な観光まちづくりの実現のため、市民が主体的に参加できる体制を構築することは重要であり、P46基本方針2「観光を通じたシビックプライドの醸成」の中の、施策5において、市民参加型の観光地域づくりの推進を設定しており、各取組の実施により、市民との協働による観光振興を図ってまいります。いただいたご意見を参考にしながら、基本理念である「ともにつなぐ 小江戸川越らしさを未来へ」の実現のため、P46取組21などの実施により、小中学生の地域への愛着や誇りの醸成に繋げてまいります。</p>
6	第6章	<p>川越の計画を前に進めるには、動かし方をていねいに整えることが大切です。市民が参加しやすい場を増やし、意見が届いて形になるまでの道筋を見えるようにしてほしいです。成果は数だけでなく、暮らしや文化を守れたかという質でふり返り、定期的に公開してほしいです。お金の使い道も、目的・費用・効果をわかりやすく示すと安心につながります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民参加：説明会、ワークショップ、オンライン意見募集を定期開催し、回答の反映状況を公表する ●評価の見える化：混雑の分散度、景観保全、満足度、トラブル減少など質の指標で定期評価 ●透明な財政：事業ごとの予算と効果をシンプルに公開し、改善案も併記 ●役割分担：行政・事業者・学校・市民ボランティアの役割を整理し、連携窓口を一本化 ●安全とマナー：食べ歩きルール、ゴミ美化、歩行者優先の導線整備を継続的に運用 	<p>本計画の評価につきましては、毎年度進捗管理を行い、設定している数値目標について、市ホームページにおいて公開する予定です。</p> <p>計画を推進するにあたり、各主体の役割分担につきましては、P58の「推進体制」及び「各主体の役割」にて示しており、各主体が連携して本計画の実現に向けて、取り組むこととしております。いただいたご意見を参考としながら、本計画を推進してまいります。</p>
7	第7章	<p>この計画がどのように作られてきたかを、わかりやすく残していくことは信頼につながります。いつ、どこで、誰の声がどのように反映されたのかを公開し、今後もだれでも追えるようにしてほしいです。形式的な記録にとどめず、要点をまとめた読みやすい形で知らせてくれると、市民も一緒に歩いていけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●策定の足あと：相談の場、参加人数、主な意見、反映した点・見送った点を簡潔に整理 ●議事録のやさしさ：長い資料は要約版を用意し、図や見出しで読みやすくする ●継続公開：改定のたびに「変更点一覧」と「理由」を公開し、前回との比較を示す ●フィードバックの通り道：提出した意見への回答を一覧化し、次の見直し時期も知らせる ●学びの共有：うまくいった事例と課題を、他地域連携や学校教育にも役立つ形でまとめる 	<p>本計画の策定経過につきましては、P63以降に審議会等の組織や検討状況を記載しております。また、審議会につきましては、市ホームページにおいて会議資料及び議事録を公開しております。公開にあたっては、誰に対しても伝わりやすい資料の作成に努めてまいります。</p>

8	まとめ	<p>川越市民憲章に込められた誇りと伝統を大切にしながら、観光振興計画を進めてほしいです。観光は市民の暮らしを守り、文化や自然を未来へつなぐための手段であるべきです。</p> <p>代々暮らしてきた当たり前で、大好きな街が、これからもみんなに愛される場所になりますように。歴史と誇りを未来に持っていけるように、計画の一つひとつに市民の声を反映していただきたいです。</p> <p>「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」の理念を実現するために、量より質を重んじ、市民憲章の精神を観光の根幹に据えてください。</p>	<p>P5「1計画策定の目的」にも記載している、「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」の状態の実現や、量より質を重視した観光振興につきましては、本計画において根幹となる部分であると認識しておりますので、いただいたご意見を参考としながら、本計画を推進してまいります。</p>
9	全体	<p>— 生活者視点・徒歩動線・情報導線の補完的考察 —</p> <p>1. はじめに(意見提出の趣旨)</p> <p>本意見書は、「第三次川越市観光振興計画(案)」を拝読した上で、本計画の方向性に賛同しつつ、生活者視点から補完的な意見を述べることを目的として提出するものです。</p> <p>筆者は、観光産業に直接従事する立場ではありませんが、埼玉県内に居住し、所沢市を拠点として技術系業務に就業する中で、日常的に川越市駅から本川越駅周辺を徒歩で通行しています。</p> <p>また近年は、電子書籍やPDF、デジタル媒体を活用した情報整理や導線設計に関わる機会があり、「情報がどのように人の行動や関係性につながるか」という観点で、行政資料や地域施策を読む立場にあります。</p> <p>本意見書では、観光客・事業者・行政といった視点に加え、**「日常的にまちを歩く生活者」「観光地を通過する人」**の視点から、本計画を否定するものではなく、補完する意見を整理しています。</p>	<p>本計画においては、P5の「1計画策定の目的」に記載のあるとおり、市民生活と観光の調和が図られた「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」の持続可能な観光地域づくりの実現が必要であると考えております。</p> <p>いただいたご意見を参考としながら、本計画を推進してまいります。</p>
10	全体	<p>2. 計画全体に対する評価(総論)</p> <p>本計画は、国・県の上位計画との整合性が明確であり、各種統計データやアンケート調査、過去計画の評価を踏まえて、課題と施策が体系的に整理されている点を高く評価します。</p> <p>特に、オーバーツーリズムへの対応、市民生活との調和、持続可能性を重視した観光振興といった観点を、理念として明確に掲げている点は、今後の観光政策において重要な方向性であると感じました。</p> <p>「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」という基本理念は、観光を単なる誘客施策としてではなく、地域全体の価値を高めるための枠組みとして捉えている点で評価されるべきものです。</p> <p>一方で、計画全体を通して読む中で、理念や施策と、生活者が日常的に体験している具体的な行動や時間帯との間に、なお補完の余地があると感じました。</p>	<p>本計画において、市民生活と観光の調和を重視しています。「生活者が日常的に体験している具体的な行動や時間帯」については、市民生活の中に含まれていると考えております。いただいたご意見を参考としながら観光振興を図ってまいります。</p>

11	全体	<p>3. 生活者・徒歩動線の視点から見た現状 本計画では、観光客の動向や回遊性、交通手段、混雑状況について、多角的な分析が行われています。 しかし、それらの分析の多くは、**「観光を目的として来訪する人」**を主語としたものです。 一方、川越市中心部には、通勤・通学で駅間を移動する人、仕事帰りにまちを通過する人、観光地と生活圏が重なる空間を日常的に歩く人といった層が一定数存在します。筆者自身、川越市駅から本川越駅周辺を徒歩で通行する中で、観光客が集中する時間帯と、生活者の移動時間帯が重なる場面を日常的に体験しています。 これらは大きなトラブルとして顕在化しにくい一方で、「住んでよし」という理念の体感に影響する要素であると感じます。</p>	<p>本市の観光における現状を把握するため、国、県、市の各種観光データを活用し、現状分析を行っております。市の観光データには、P25に記載がある「市民の川越市の観光への満足度」や「観光振興のための必要な施策」といった市民の方への調査データも含まれています。 「生活者・徒歩動線の視点」や、「観光地と生活圏が重なる空間を日常的に歩く人の層」の満足度も、「住んでよし」の実現に向けて重要な要素であると認識しておりますので、いただいたご意見を参考としながら、今後の観光振興に取り組んでまいります。</p>
12	全体	<p>4. 時間帯と体験価値のずれについて オーバーツーリズムの課題は、主に休日・日中の混雑として整理されています。これは重要な論点である一方で、平日夕方、通勤・帰宅時間帯、観光客と生活者が短時間交錯する時間帯といった「観光と生活が重なる時間帯」も、体験価値に影響を与えています。これらの時間帯は、観光施策の対象としても、生活環境施策の対象としてもどちらにも明確に位置づけられにくい中間領域であり、結果として課題が見えにくくなっている可能性があります。 しかし、この中間領域こそが、観光都市としての印象だけでなく、住み続けたいまちとしての印象にも影響するのではないのでしょうか。</p>	<p>住み続けたいまちとして、「観光と生活が重なる時間帯」を観光客と生活者が快適に過ごせるようにすることは、住んでよし・訪れてよしの実現のために重要であると認識しておりますので、いただいたご意見を参考としながら、今後の観光振興に取り組んでまいります。</p>
13	全体	<p>5. デジタル情報発信と行動導線に関する所感 本計画では、SNSやデジタル技術を活用した情報発信、観光DXの推進が重要施策として示されています。この方向性自体は妥当であり、今後も重要性が高まると考えます。 一方で、計画全体を通して感じられたのは、情報を発信すること、行動や関係性につながることに距離があるという点です。多くの情報は、Webサイト、SNS投稿、パンフレットやPDFといった形で提供されていますが、それらが次の行動や継続的な関係性へどのようにつながるのかは、必ずしも明確ではありません。</p>	<p>本計画において、情報発信や観光DXに関わる取組については、P43取組12や取組13等に盛り込まれておりますので、いただいたご意見を参考としながら、各取組を効果的に実施してまいります。</p>
14	全体	<p>6. 市民・個人が関与できる余地について 本計画では、観光協会、DMO、事業者等との連携が重視されています。一方で、個人レベルでどのように関与できるのかについては、具体像が示されていません。 しかし実際には、日常的にまちを歩いている人、観光客と接点を持つ生活者、地域の魅力を自分の言葉で語れる人といった個人の存在が、まちの印象形成に影響を与えています。 こうした個人が、情報発信や体験の翻訳者として関われる余地を、小規模・試行的にでも設けることは、地域理解の深化につながる可能性があると考えます。</p>	<p>本計画の推進体制につきましては、P58「計画の推進に向けて」において整理しております。 ご意見としていただいた、「日常的にまちを歩いている人」、「観光客と接点を持つ生活者」、「地域の魅力を自分の言葉で語れる人」といった個人それぞれの具体像は本計画に記載していませんが、このような方々は、P59(6)市民、(8)伝統・文化の担い手、(9)関係人口、(10)観光関連事業者の中に含まれていると考えております。 なお、一例として、P46取組20において、イベント開催にあたり、様々な個人が関わるような取組を推進してまいります。 いただいたご意見を参考としながら、市民の皆様とともに今後の観光振興に取り組んでまいります。</p>

15	全体	<p>7. 結び</p> <p>第三次川越市観光振興計画(案)は、観光振興を短期的な誘客施策に留めず、地域全体の持続可能性として捉えようとする意欲的な計画であると感じました。本意見書で述べた内容は、計画の方向性を否定するものではなく、生活者視点・徒歩動線・情報導線という観点からの補完です。</p> <p>川越が、訪れる人にとって魅力的であると同時に、住み、働き、通り続ける人にとっても心地よいまちであり続けるための一助として、本意見が今後の検討に活かされれば幸いです。</p>	<p>いただいたご意見を参考としながら、「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」の持続可能な観光地域づくりの実現のため、訪れる人はもとより、住み、働き、通り続ける人も快適に過ごすことができるよう本計画を推進してまいります。</p>
16	第4章 基本理念	<p>P35川越らしい新たな魅力とは何か？</p>	<p>川越らしい新たな魅力とは、川越ならではの歴史・文化・伝統などを活用したこれまでにない体験型観光や、郊外の多様な観光資源の発掘・活用による観光振興に加え、地域の資源を生かし、持続性のある、住民自らも楽しむことができる取組みなどと考えております。</p>
17	第5章 取組	<p>取組14グリーンツーリズムの推進をもっと展開して欲しい。せっかく整備したのにもったいない</p>	<p>P44取組14グリーンツーリズムの推進につきましては、令和8年度にグリーンツーリズム拠点施設にキャンプスペースが構成施設として加わるとともに、指定管理者による管理運営が始まります。いただいたご意見を参考としながら、各施設のサービスの充実により、グリーンツーリズムの推進を図ってまいります。</p>
18	その他	<p>中心市街地以外へのアクセスの確保がないと、中心市街地以外観光が展開しないのではないかと</p>	<p>中心市街地以外へのアクセスの確保につきましては、P41取組6においてサイクルステーションの配置の適正化を図るとともに、P40取組3において公共交通機関の利用に関する情報発信をすることで、中心市街地以外の観光への展開を進めてまいります。</p>
19	第3章 オーバー ツーリ ズム	<p>P17オーバーツーリズムの対策について図だけではどんなことをしているのかわかりづらい</p>	<p>P17の(2)本市のオーバーツーリズムの対策事業の説明につきまして、図のみでは把握しづらいとのご意見を受けまして、見出しの解説文にオーバーツーリズム対策事業の全体の構成や方向性について説明を追記いたしました。</p>
20	第3章 主な観 光資源	<p>P16東上線沿線の東洋大学以外の大学等のスポーツチームとも連携してはどうか。または、音楽のクラブなどとも</p> <p>中心市街地だけに頼らない観光に本気で取り組んで、新たな産業を創出出来るようにがんばってください</p>	<p>P16⑤に関連することとして、スポーツ等を通じた観光振興は、本計画において重要な視点であると考えております。</p> <p>いただいたご意見を参考としながら、市内の多様な観光資源を活用し、観光エリアの分散化や回遊性の向上に取り組んでまいります。</p>
21	第5章 取組	<p>コエトコ周辺を夜の居酒屋スペースにする施策を立ててはどうか。各種観光地の中心地であり夜の集客が見込めれば大正ロマン通りの活性化にもなる。</p>	<p>夜間観光につきましては、日中の混雑の分散だけではなく、夜の賑わい創出によるまちの活性化や滞在時間の延長に繋がる重要な視点であると捉えております。いただいたご意見を参考としながら、P51取組36のような、夜の集客に繋がるよう取組を推進してまいります。</p>